

千葉商科大学・数理データサイエンス教育プログラム 自己点検・評価報告書

千葉商科大学・数理データサイエンス教育プログラムについて、以下の通り、当機構で自己点検・評価を行った。

自己点検・評価体制における意見等

【学内からの視点】

■プログラムの履修・修得状況

学生のプログラム履修・修得状況は、業務システムにより教職員が把握できるようになっており、基盤教育機構情報科目分科会において、本教育プログラムの履修・修得状況の分析を定期的実施している。また、授業への取り組み状況は本学LMS「CUC PORTAL」の出席管理システムでの出欠確認や、課題提出確認を通じて学生ごとに把握することができる。これらの結果をもとに、授業の実施形態などの改善に役立っている。

■学修成果

ディプロマ・ポリシーに基づき、本学として育成する力である「CUC 3つの力」を定めるとともに、「CUC 3つの力」を構成する能力要素を「CUC 6つの能力要素」として定め、カリキュラムを編成している。科目ごとに身に付けられる「CUC6つの能力要素」を定めており、毎学期授業ごとに「授業評価アンケート」にて授業を通じて身についた「CUC6つの能力要素」を調査している。合わせて、シラバスに記された科目の到達目標達成度合に関しても調査している。調査結果を基盤教育機構情報科目分科会が分析し、本教育プログラムの評価・改善に役立っている。

■学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

各該当科目の授業評価アンケートの設問の中で「学修成果(学生の成長度合い)の把握につなげる」という目的で設けている設問 No.16(本学で身に付くCUC6つの能力要素のうちこの授業を通じて伸びたと実感したもの)、17(シラバスに記された科目の到達目標の達成度)の回答結果から評価を行う。

■学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

各該当科目の授業評価アンケートの設問 No.10「この授業は十分満足できるものであった。」の回答結果を推奨度として評価する。今後はより推奨度を評価できるアンケートを取ることを検討する。

また、特別講義データサイエンスでは、他学生への推奨度をアンケートにて把握し、履修者数、履修率向上のための判断材料としている。

■全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

計画の目標を実現するために、令和7年度より予定している全学的なカリキュラム改定の検討において、選択科目「情報と倫理」「統計学入門」の設置コマ数及び履修定員を順次増やすことの検討を進めている。令和7年度

以降段階的に履修者・履修率の向上を見据えた施策を検討している。また、授業時間内外での学習指導、質問を受け付ける仕組みや教育上の工夫、学生指導・支援等の学修サポート等について、情報科目分科会等において、より適切なものとなるよう定期的に検討している。

【学外からの視点】

■教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

本教育プログラム修了者は卒業していないため、進路・活躍状況、企業などの評価を得ることはできない。しかし、本学では卒業から1～3年経った卒業生および卒業生の就職先企業を対象に毎年アンケートを実施しており、今後は本教育プログラム修了者の活躍状況を把握できるようになるものと考えている。

■産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

就職活動支援を行うキャリア支援センターが企業に実施したアンケートにおいて、これからのデジタル社会において学生に求める能力や人材について調査を実施した。その結果を分析し、本教育プログラム内容・手法の改善に役立てている。

■数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

当該科目の担当教員がモデルカリキュラムの観点で、「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を従来以上に意識して授業展開や教材作成に取り組む。学ぶ楽しさについては、実践的な体験活動を通じて、数理・データサイエンス・AIの利活用が社会的な問題とその解決のために有用であることを実感できるようにする。

「統計学入門」においては、プログラムによる新聞記事の統計的検証など、現実の問題とデータサイエンスの関わりを感じることができるよう講義を構成するほか、特別講義「データサイエンス」では、身近な問題に関するデータを収集して学んだことを実践することができるように設計されている。学問的あるいはビジネスにおける活用事例を通じた学習により、数理・データサイエンス・AIに関わる基礎的なリテラシーを身につけられるようにし、学ぶことの意義について理解できるように工夫する。

■内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

本プログラムを構成する科目は従来、本学カリキュラム上に設置されていたものであり、その内容・水準は引き続き維持される。またプログラムの授業内容・概要にも記述したように、各授業の内容・水準はモデルカリキュラムの導入、基礎、心得の各内容を満たしている。今後の内容・水準の持続的な向上のため、また、本学の平均的な学生にとって分かりやすく学べる内容とするために、当該各科目の授業評価アンケートの結果を参考とし、また必要に応じて追加調査の実施も検討している。